

開催報告書

10th
Anniversary

これまでの振り返り、未来を描く3日間

Social Impact Day 2026

共 創 の 航 海

全ての人がインパクト・エコノミーの
担い手となり、新たな地平へ

6.17 WED → 6.19 FRI

目次

- **SID2026開催概要** ...p. 3 ~ 7
- **数字で見るSID2026** ...p. 8 ~ 1 1
- **参加者の声** ...p. 1 2
- **協賛・後援・協力等** ...p. 1 3 ~ 1 4
- **SID2026を終えて** ...p. 1 5
- **主催／共催団体の紹介** ...p. 1 6

- ❖ **Social Impact Day 2026 セッションレポート** : <https://simi.or.jp/info/11624>
- ❖ **Social Impact Day 2026 特設サイト** : <https://social-impact-day.simi.or.jp/>

開催概要

【開催日時】

- ❖ DAY1 — 2026年6月17日（水） 9:40-17:00 ／ オンライン配信（Zoomウェビナー）
- ❖ DAY2 — 2026年6月18日（木） 9:30-17:10 ／ オンライン配信（Zoomウェビナー）
18:00-20:00 ／ 懇親会（笹川平和財団ビル10F 社員食堂）
- ❖ DAY3 — 2026年6月19日（金） 8:30-12:20 ／ オンライン配信（Zoomウェビナー）

【主催】

- ❖ 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）

【共催】

- ❖ 公益財団法人社会変革推進財団（SIIF）

開催概要

【連携イベント】

インパクトコンソーシアム in person 2026 —インパクトの裾野拡大、その次の一歩—

❖ 開催日時：2026年6月19日（金）13:00-18:30

Social Impact Day 2026は、インパクトコンソーシアムの成果報告会を兼ねた『インパクトコンソーシアム in person 2026 —インパクトの裾野拡大、その次の一歩—』と日程・内容・広報面で連携し、国内外の最新動向や実践知を共有する場となるよう、幅広いネットワーク・多様な関係者と協力して開催しました。

カンファレンス・テーマ

共創の航海

— 全ての人インパクト・エコノミーの担い手となり、新たな地平へ —

2026年、Social Impact Dayは、第10回という節目を迎えます。

今年のテーマ「共創の航海」は、企業、投資家、行政、非営利組織、市民など、多様な主体がそれぞれの視点と力を持ち寄り、共に未来を創る旅の始まりを象徴しています。それは、単なる協働ではなく、対話と価値創造を通じて、持続可能な経済と社会の実現を目指す旅路の幕開けです。

10年の歩みを礎に、私たちは次の地平へと向かいます。このカンファレンスが、共創の仲間と出会い、未来への羅針盤となることを願って— さあ、共に航海へ。

基調セッション

「コレクティブ・インパクト」の15年、そしてこれから

【開催日時】 2026年6月17日（水） 10:00-11:00

【登壇者】 Jennifer Splansky Juster 氏
(Executive Director, Collective Impact Forum)

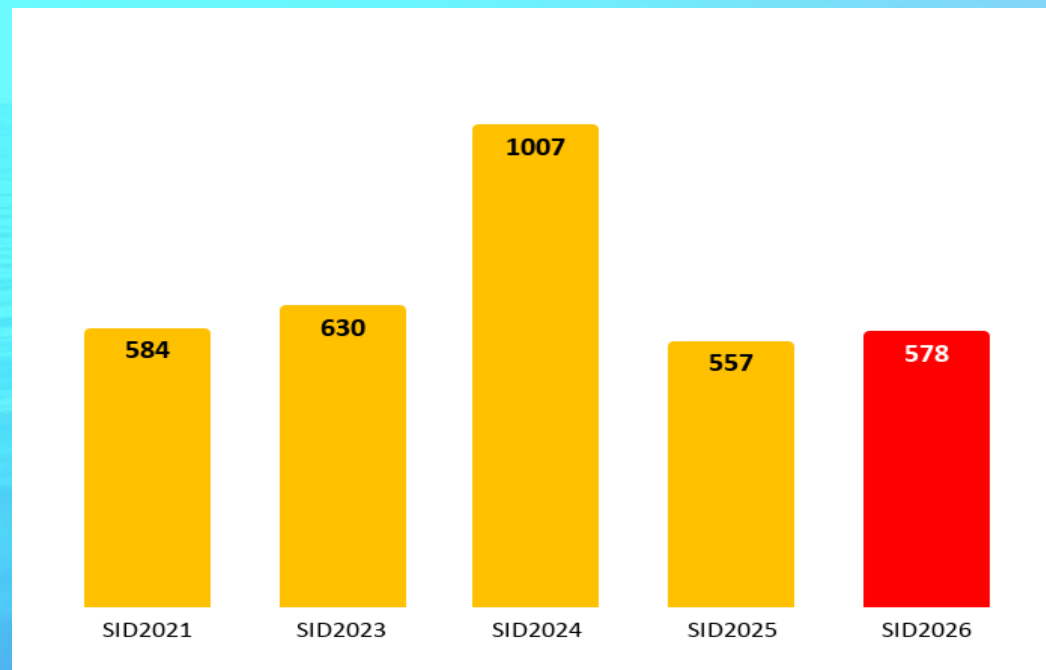


※本セッションのイントロダクションと登壇者の紹介は、LGBTQ、子どもの貧困、エクイティ等の領域でフリーランスとして活動されている佐藤淳氏とSIMI今田で行いました。

Day1: 2026年6月17日（水）		Day2: 2026年6月18日（木）		Day3: 2026年6月19日（金）	
09:40-10:00 （20分）	オープニング・トーク 共創の航海、ここから始まる ― Social Impact Day 10年の軌跡と次の地平へ	09:30-10:40 （70分）	スペシャルセッション② 日本のインパクト・エコノミー10年の歩み	08:30-09:20 （50分）	セッション⑩【同時通訳（Zoom翻訳）】 インパクト・ファイナンスにおけるインパクトの検証・保証の動向 ～BlueMarkの知見から
10:00-11:00 （60分）	基調セッション【同時通訳】 「コレクティブ・インパクト」の15年、そしてこれから			09:30-10:20 （50分）	セッション⑪ ラベルから対話へ～デットのインパクトファイナンスにおけるエンゲージメントの最前線
11:10-12:00 （50分）	協賛セッション① 農林水産業・地域活性化におけるインパクト創出・可視化の取り組み～農福連携の現場の声を通じて～	10:50-11:50 （60分）	セッション⑤ 資本が「めぐる」地域をどうつくるか ― 地域資本循環とインパクトの新しい視点 ―	10:30-11:20 （50分）	協賛セッション⑤ IMMの“壁”を越えるー実務者のリアルから紐解く、インパクト測定・マネジメントの実践知
～ ランチタイム ～		～ ランチタイム ～		11:30-12:20 （50分）	セッション⑫ こども視点が金融と社会を変える ―― 日本におけるChild-Lens Investing（CLI）の幕開けと官民共創の現在地
13:00-13:50 （50分）	セッション① 新しい公益信託がはじまります！～第一号新規認可案件：認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ～	13:00-13:50 （50分）	セッション⑥【同時通訳】 進むTISFD基準の策定～ルール形成に関するチャンス！		セッション⑬ 企業の社会的価値志向経営モデル
	セッション② B Corpムーブメントがにらむ「次なる資本主義」		セッション⑦ 民官共創による、地域における社会的インパクト創出の可能性を探る～「スポーツ」を活用した取り組み事例を通じて～		
14:00-15:00 （60分）	スペシャルセッション① インパクトは何を変えたのか？ ― 10年の軌跡と次の地平	14:00-14:50 （50分）	協賛セッション③ ローカルスタートアップエコシステムはユニコーンを創出することが出来るのか？ ―地方の社会課題解決型スタートアップ企業成長のための課題解決を目指し―		
15:10-15:45 （35分）	協賛セッション⑥ 「喜び」を生む体験設計が、持続的なインパクトを創出する ― 競合が共創する「DO REPAIRS」に学ぶ、生活者発想の社会実装	15:00-15:50 （50分）	セッション⑧【同時通訳】 Value to Society × Value to Business		
15:10-16:00 （50分）	セッション④ AI時代の社会的インパクト・マネジメントの設計論～価値形成・意味形成のプロセスを問い直す～		セッション⑨ インパクトフィランソロピー：社会変革を生み出すために		
16:10-17:00 （50分）	協賛セッション② インパクト“K”プロジェクト座談会 2026 ～実践から紡ぐ、インパクトの現場～	16:10-17:10 （60分）	協賛セッション④【同時通訳】 インパクトの主流化へ～3メガバンクによるインパクトエコノミーの形成	【懇親会（SIMIエンゲージド・メンバー、登壇者、招待者限定）】 ・日時：6月18日（木）18:00-20:00 ・会場：笹川平和財団ビル10F社員食堂	

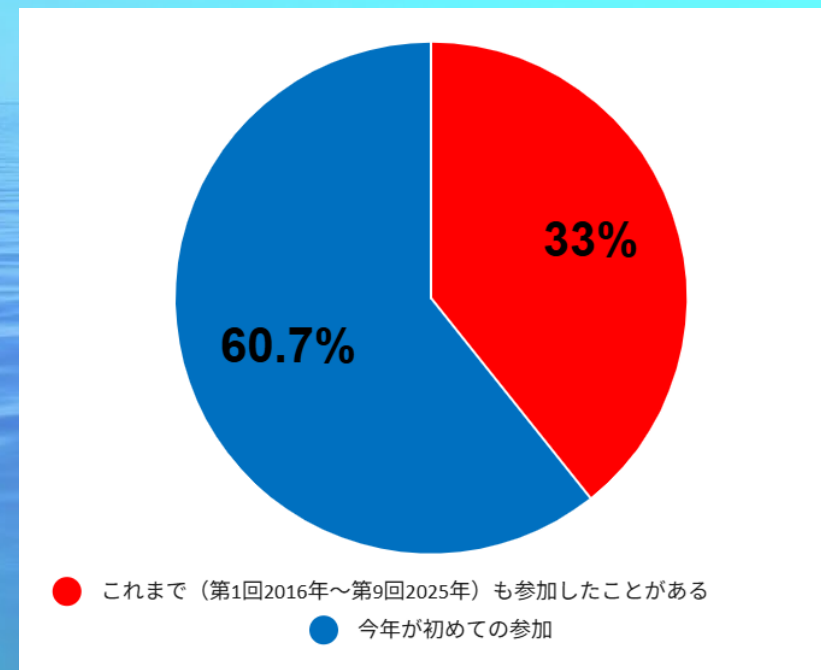
数字で見るSID2026

申込者数



※SID2025、2026は有料チケットのみ（～SID2024までは無料チケットあり）
※SID2024はハイブリッド開催。

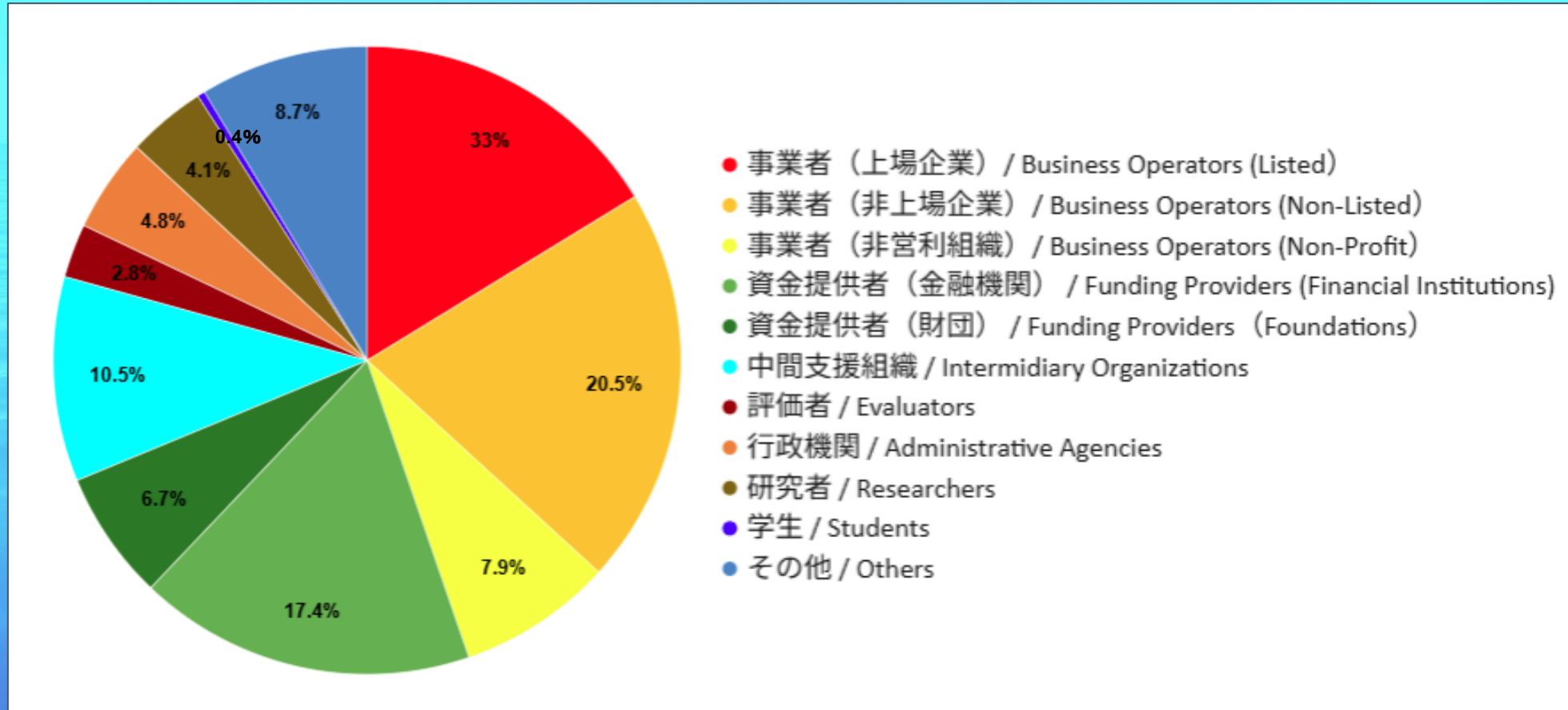
リピート率



※イベント後のアンケート結果より
（回答数=84）

数字で見るSID2026

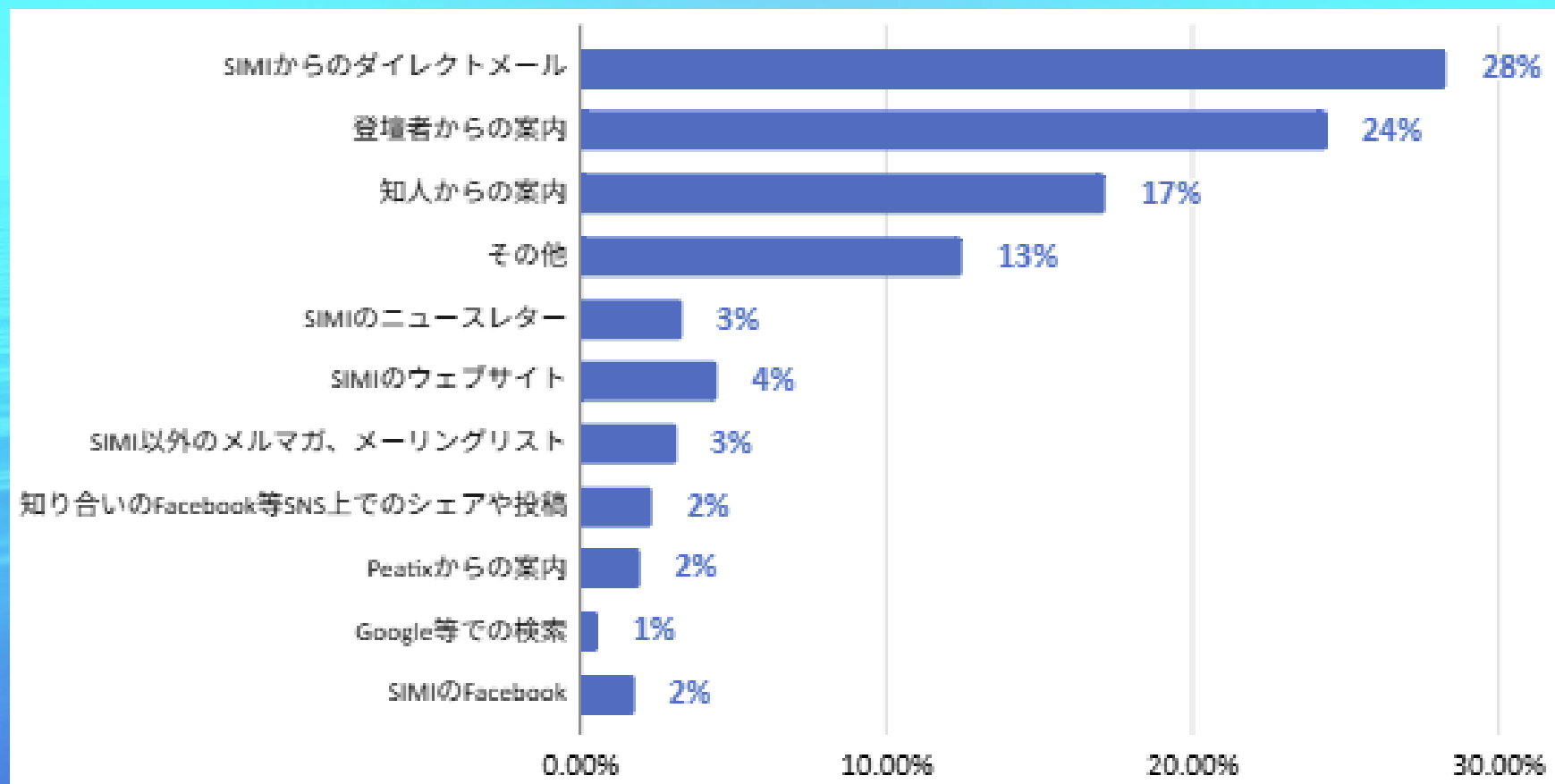
申込者属性



※Peatix申込時の取得データより
(回答数=541)

数字で見るSID2026

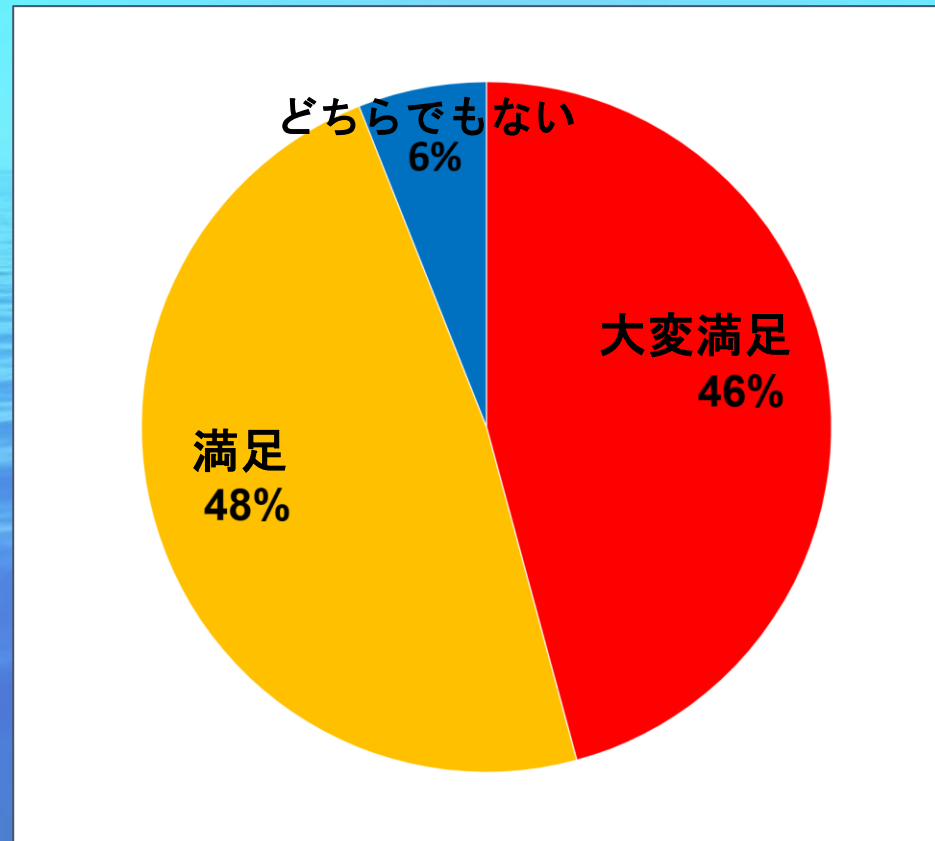
認知経路



※Peatix申込時の取得データより
(回答数=512)

数字で見るSID2026

運営満足度



※イベント後のアンケート結果より
(回答数=83、5段階スケール)

参加者の声

※イベント後のアンケートより

● 学びや気づき

- サステナビリティやインパクトに関する議論において、開示や可視化そのものが目的ではなく、それらが企業の意思決定や価値創造にどのようにつながるのが本質であると改めて感じました。特に、非財務情報をどのように活用し、企業価値や投資判断に結び付けていくかという点は、今後更に議論が深まるべき重要な論点と認識しています。
- 今回は10年という節目もあり、振り返りや課題、SIMIの皆さんの冷静なコメント（スペシャルセッション①）が、インパクトの今を、喧伝されることなく、リアルに表現されており、大変良かったです。あとは地域社会やシステムが目立ちました、実効性が今後の課題というメッセージと受け止めました。
- 日本の弱い部分、たとえば地方や福祉などに資金を回すうえで、インパクトファイナンスという手法は不可欠であり、このイベントを継続することは意味があると思う。政府レベルでいえば岸田政権の時はあれだけ力が入っていたのに対し、最近は若干不透明であると感じているが、一方でこのように民間において、何があっても基本同じテンションでイベントを長らく持続されているということは本当に意味があることだと思う。

● 運営全般

- 初めて参加させてもらいましたが、多様な視点がアジェンダに網羅されていて、大変勉強になりました。
- モデレーターの方が最初に登壇者の関係性や全体像を示してくださったセッションは個別の話が聞きやすかったので、そのような展開をしていただけるとよりよいのではと感じました。
- オンラインだったため参加しやすく良かったです。ネットワーキングなど新たな参加者が参加しやすい時間も作っていただけたら有難いです。

● 次回取り上げてほしい事例

- 毎年同じような登壇者やテーマが揃っている。もう少し違う登壇者やテーマ設定がほしい。
- インパクトマネジメント系とインパクト投資系、双方重要であるが、先端的過ぎるゆえの距離感を覚える。知識としての有用性は認めるが、自身の事業にどのように実装しているか道筋が見えないような話が多かった。

協賛

SID2026は、以下の組織にご協賛いただき実現しました。感謝申し上げます。

【協賛 |
Sponsors】

プラチナ

ともに挑む。ともに実る。

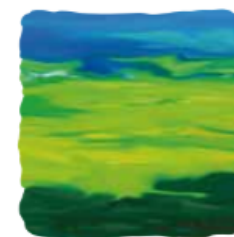
MIZUHO

pwc

ゴールド

JP かんぽ生命
INSURANCE

NOMURA
野村アセットマネジメント



NORINCHUKIN
農林中央金庫

シルバー



IMPACT CIRCLE

Hakuhodo

ブロンズ

and PUBLIC



ニッセイアセットマネジメント株式会社

後援・特別協力

SID2026は、以下の組織・機関にご後援・ご協力いただき実現しました。感謝申し上げます。

【後援 | Supporter】



【特別協力 | Special Support】



IMPACT SHIFT



SID2026を終えて

SIMI理事 高木麻美

Social Impact Day 2026は、多くの皆さまのご参加とご協力のもと、無事に幕を閉じることができました。ご登壇、ご参加、ご協賛、ご後援、そして本イベントをさまざまな形で支えてくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。

今年、Social Impact Day 2026は、第10回という節目の年にあたり、「共創の航海 - 全ての人がインパクト・エコノミーの担い手となり、新たな地平へ -」をテーマに開催しました。社会課題がますます複雑化し、不確実性の高い時代にある今、特定の誰かだけが変化を担うのではなく、企業、行政、投資家、非営利組織、市民など、多様な立場の人々がそれぞれの力を持ち寄り、ともに未来をつくっていくことの重要性を、改めて確認する3日間となりました。

今年は500人を超える皆さまにご参加いただき、22のセッションを通じて、実践知と問いを持ち寄る豊かな対話が生まれました。インパクト・エコノミーの現在地と可能性を見つめる議論はもちろんのこと、その実現を支えるために私たち一人ひとりがどのような役割を果たしていくのか、という根源的な問いにも多くの関心が集まりました。

とりわけ印象的だったのは、「人」に関わる議論の広がりです。社会的インパクトの考え方や実践を、より多くの人へどう広げていくのか。そのために、どのように人を巻き込み、立場や領域を越えた関係性を育んでいくのか。さらに、生成AIの活用が加速する時代だからこそ、私たち人間に求められる姿勢やあり方とは何か。こうした問いが、さまざまなセッションや対話の場で繰り返し投げかけられていたことは、今年のSocial Impact Dayを象徴する重要な特徴だったと感じています。

インパクトを生み出す営みは、制度や資金、手法だけで前に進むものではありません。そこには、人の意思があり、対話があり、他者ととともに進もうとする関係性があります。だからこそ、これからのインパクト・エコノミーを考えるうえで、「何を実現するか」と同時に、「誰と、どのように実現していくか」を問い続けることが、ますます重要になっていくはずです。

Social Impact Day 2026が、そのための新たな出会いと学びを生み、それぞれの現場での次の一步につながる場となっていたなら、これほど嬉しいことはありません。本イベントで交わされた議論や生まれたつながりが、この場限りで終わることなく、これからの実践へと引き継がれ、次の共創へとつながっていくことを願っています。

主催・共催団体の紹介

【主催】

SIMI

社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ

Social Impact Management Initiative

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（Social Impact Management Initiative: SIMI）は、日本において事業者、資金提供者・仲介者、行政、中間支援組織・シンクタンク、評価者・研究者など多様なメンバーが連携して、日本全体として「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブです。2026年4月現在、約100の個人・組織がメンバーとして参加しています。<https://simi.or.jp/>

<理事>

- 今田 克司 株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役（代表理事）
- 伊藤 健 特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン代表理事（業務執行理事）
- 鴨崎 貴泰 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会常務理事（専務理事）
- 幸地 正樹 ケイスリー株式会社代表取締役（業務執行理事）
- 高木 麻美 株式会社Stem for Leaves代表取締役（業務執行理事）

【共催】

SIIF

Social Innovation
and Investment Foundation
社会変革推進財団

社会課題解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指し、自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステムの実現を目指しています。従来のインパクト投資・社会起業家支援事業やエコシステムビルダーとしての役割に加えて、インパクトエコノミーの実現に向けて地域活性化・機会格差・ヘルスケアの3領域でシンボリックな事例づくりに取り組むとともに、新設したImpact Economy Labを通じて最先端知見の開発と政策提言を通じたThought Leadershipを発揮していきます。SIIF は日本財団から助成を受けこれらの活動を行っています。<https://www.siif.or.jp/>

<理事>

- | | |
|--------------|------------|
| ➤ 理事長 大野 修一 | ➤ 理事 永田 俊一 |
| ➤ 専務理事 青柳 光昌 | ➤ 理事 有馬 充美 |
| ➤ 常務理事 高石 良伸 | ➤ 理事 中島 真 |
| ➤ 常務理事 工藤 七子 | |